



伝えた後を、しっかり観察しましょう

コミュニケーションのポイントの第二は、「結果」をしっかりと観察することです。私たちは、情報を正確に、早く、わかりやすく伝える大切さは教わってきたものの、相手がそれをどう受け止めたかという「結果」は、あまり重視してこなかったと思います。自分の伝えなかったことが100だとして、相手に30しか伝わらなかつたら70は自分の伝え方に問題があるのです。

相手のフィールドに入っていく

ポイントの第二は相手のフィールド(世界観)に入ることです。私たちは、かつて見たり聞いたり感じたりした経験によって、自分の価値観や行動規範の枠組みをつくっています。「私は整理整頓ができていないと気がすまない」「私は雑然としているほうが落ち着く」などもそれぞれの枠組みでありフィールドです。自分のフィールドに相手を引き込もうとしたり、相手のフィールドを否定するばかりだと、対立してしまいます。相手のフィールドに入るには、まず自分の枠組みを知り、自分をしっかり持つことです。自分を持っていないことが不安につながり、相手を否定したり、自分の考えを押し付けてしまったりすることになります。相手の言動を「この人にとってはこれが最善なんだな」と考えることも大切です。「私はたばこが嫌い。隣で吸われるのもイヤ」——これは自分のフィールドの押し付け。「あなたにとって息づく

くらしの中のいきいき

コミュニケーション

くらしの中のさまざまな場面で必要となるコミュニケーション。地域や近所、職場などで、助け合いながら楽しく過ごすためにもコミュニケーションは大切です。今回は、コミュニケーション上手になれる秘訣を、人財育成コンサルタントの川端美智子さんに教えていただきました。

プロフィール



川端 美智子さん
株式会社ライフキャリア
デザイン・アソシエイツ
代表取締役

医療ソーシャルワーカー、男女共同参画政策の企画・情報、支援の専門員、コンサルティング会社を経て、女性の活躍推進コンサルティング会社を設立。人のワクワクやドキドキを大事にすることをモットーとして、広く人財育成を展開している。

自分を知って、自分を変えよう。

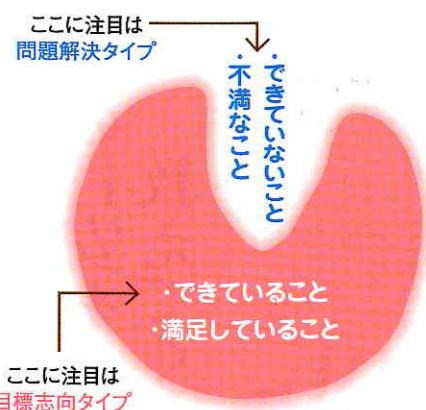
コミュニケーション上手になる最後のポイントは、相手を変えようと思わないことです。変えようとした瞬間に、示唆的・圧迫的なコミュニケーションになります。変えられるのは自分だけです。自分が変わればおのずと相手との関係性も変わります。

コミュニケーション上手といわれる人の特徴は、

- ① 自分の枠組みを知っている
- ② 自分自身をしっかりと持っている
- ③ 柔軟性がある



です。自分を深く知った上で、自分と相手との生き方を重ね合わせることで、できる人がコミュニケーションの達人です。まずは、自分を知り、自分を変えることから始めませんか。それまでのコミュニケーションにきつと変化がおきますよ。



の、たばこが最善なんやね」と考えられたら、相手のフィールドに入れたことになり。そこで「でも私はたばこの臭いだけでもだめなの」と伝えられれば、コミュニケーションが成り立ちます。違いを認めてから自分を伝える、ということですね。また、思考のパターンを知っておくことも助けになります。たとえば、足りないことに注目する問題解決タイプと、できていることに注目する目標志向タイプ。両者は、目指すものは同じでも意識や言葉が変わるため、対立がおきやすいです。この人は足りないことに注目するタイプなんだ、と認識できれば、自分を守りながら相手のフィールドに入っていくやすいでしょう。基本は、人はそれぞれ違ってあたりまえのことです。



▲1階の出発お見送りホールは、広々としたスペースを確保しています。



▲初七日などを行なえる小ホールもあります。



▼ 式場横の待合スペース。



▲2階から4階には式場が2ホールずつ。



▲式場の近くには家族控室を完備。



◀ 外観と正面入口 ▶



柔軟な式場セッティングで、喪家様のご意向をかなえます

公益社 北ブライトホール
1級葬祭ディレクター
矢沢 幸治さんに
案内していただきました

北ブライトホールは、2階から4階までそれぞれ2ホールずつ、地下と1階のホールもあわせると、全体で9ホールあります。2階から4階までは、柔軟なセッティングが可能なホールとなっており、2つをつなげて大きな式場として使ったり、ただくこともできます。会館の左右それぞれにはエレベーターと階段があり、ご会葬いただく方をスムーズに式場へご案内できます。



公益社 北ブライトホール

075-414-0420
〒603-8158 京都市北区紫野宮西町34番地